

Canon

オリジナルデータセキュリティキット

OSK-E3

Windows

J

使用説明書

ご使用前に必ずお読みください

このたびは、弊社の製品をご購入いただきありがとうございます。
本書には製品をより安全にご使用いただくための注意事項が本書の冒頭に記載されています。これら
の内容をご一読いただいてから、各章の内容をお読みになり、正しくご使用ください。

- ① 本書の内容の一部または全部を無断で転載することは、禁止されています。
- ② 本書の内容に関しては、将来予告なく変更することがあります。
- ③ 本書の内容については万全を期していますが、万一、誤りや記載もれなど、お気付きの点がありましたら、別紙のキヤノンお客様ご相談窓口までご連絡ください。
- ④ このソフトウェアを運用した結果については、上記にかかわらず責任を負いかねますので、ご了承
ください。

登録商標について

- Canon および EOS は、キヤノン株式会社の商標です。
- Microsoft および Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国および他の国における登録商
標または商標です。
- その他、本書中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

目次

ご使用前に必ずお読みください.....	2	ユーザー情報管理.....	20
登録商標について.....	2	カメラ情報管理.....	22
安全上のご注意.....	3	OS カードの複製.....	24
妨害電波自主規制について.....	3	OS カードのデータをパソコン上にバッ クアップする.....	26
本書の操作説明と本文中のマークにつ いて.....	4	パソコンから OS カードにデータを復 元する.....	27
動作環境について.....	4	OS カードの初期化.....	29
画像オリジナル性の検証について.....	5	トラブルシューティング.....	30
画像オリジナル性の判定基準について..	5	アンインストール手順.....	32
画像のオリジナル性を検証する.....	6	ソフトウェアをアンインストールす る.....	32
OS カードの初期設定.....	11	ドライバをアンインストールする..	32
画像の暗号化.....	14	主な仕様.....	33
画像の復号.....	16	本製品のセキュリティについての注意事 項.....	33
画像の復号表示.....	16		
画像を復号して保存.....	17		
終了する.....	19		
OS カードの登録とメンテナンス.....	20		

ご使用前に必ずこの使用説明書をお読みください。
将来いつでも使用できるよう大切に保管してください。

安全上のご注意

ご使用前にこの「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告

- セットに入っているCD-RをCD-ROM対応ドライブ以外では絶対に再生しないでください。音楽用 CD プレイヤーで使用した場合は、スピーカーなどを破損する恐れがあります。またヘッドフォンなどを使用した場合は、大音量により耳に障害を負う恐れがあります。
- リーダー/ライターに、鉄板、プラスチック、紙などの異物や、OS カード以外の挿入はしないでください。
- パソコンと OS カードの通信中（リーダー/ライターのランプが点滅状態）および、ソフトウェアの起動中は、OS カードやリーダー/ライターを取り外したり、パソコンの電源を切ったりしないでください。OS カードを壊す原因になります。
- 異常な臭い、発煙、または音がするときは、すぐにリーダー/ライターを取りはずしてください。

注意

- リーダー/ライターは、ほこりの多い場所や、水などのかかりやすい場所で使用しないでください。
- リーダー/ライターは、高温多湿になる場所、または直射日光のあたる場所で使用しないでください。
- リーダー/ライターを、机上から落としたり、強い衝撃を与えないでください。
- 油やほこり等が付着した OS カードをリーダー/ライターに挿入しないでください。
- OS カードをリーダー/ライターに挿入する時、表裏逆、または逆方向からの挿入をしないでください。
- リーダー/ライターやOSカードをベンジンやシンナー等で拭かないでください。
- 1台のパソコンに複数台のOSカードリーダー/ライターを接続して使用しないでください。
- 本製品を USB ハブ経由で接続することはできません。

妨害電波自主規制について

本機は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。本機は、家庭環境で使用することを目的としていますが、本機をラジオやテレビジョン受信機に近接して使用すると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

本書の操作説明と本文中のマークについて

本書は、Windows Vista (32bit)、Windows XP Home Edition/Professional、Windows 2000 Professional (以降、Windows Vista、Windows XP、Windows 2000) の OS を対象としていますが、操作方法が共通のときは、Windows XP の画面を例に説明しています。



:故障など OS カードやリーダー/ライターに不都合が生じたり、ソフトウェアやパソコンの操作に不都合が生じる恐れのある注意事項が書かれています。



:ソフトウェアを操作する上で、基本操作に加えて、知っておいていただきたい事項が書かれています。

動作環境について

OS (オペレーティングシステム)	Windows Vista *1 Windows XP Professional/Home Edition *2 Windows 2000 Professional *3	
機種	上記の日本語版 OS がプリインストールされていて、USB 接続部を標準装備したパソコン ※アップグレード機は動作保証外	
CPU (シーピーユー)	Windows Vista	Pentium 1.3GHz 以上
	Windows XP	Pentium 750MHz 以上
	Windows 2000	Pentium 750MHz 以上
RAM (メモリー)	Windows Vista	512MB 以上
	Windows XP	256MB 以上
	Windows 2000	256MB 以上
インターフェース	USB2.0 Hi-Speed	
ハードディスク空き容量 (MB/ 以上)	50 * Microsoft .NET Framework2.0のインストールに別途280MB	
ディスプレイ	画像の解像度：1024 × 768 ピクセル以上 画面の色：中 (16 ビット以上)	

*1 Starter Edition を除く全バージョンの 32bit システムに対応

*2 Service Pack2 の 32bit システムに対応 *3 Service Pack4 に対応

画像オリジナル性の検証について

画像オリジナル性の検証は、カメラが撮影時に生成して画像に付加する「オリジナル画像判定用データ」を用いて行います。

オリジナル画像判定用データは、画像と撮影情報（シャッター速度など）の「特徴」をデータ化したもので、MAC（Message Authentication Code：メッセージ認証コード）といわれる値を使用しています。

本キットでは、ソフトウェアに読み込んだ画像に対して、カメラと同じ手法で「オリジナル画像判定用データ」を生成し、撮影時に生成された「オリジナル画像判定用データ」との差異を比較することで画像オリジナル性の検証を行います。なお、本キットでは、読み込んだ画像に対する「オリジナル画像判定用データ」の生成と、画像オリジナル性の検証を OS カードで行っています。

画像オリジナル性の判定基準について

オリジナルと判定される条件

- 撮影時に生成された「オリジナル画像判定用データ」と、本キットで生成された「オリジナル画像判定用データ」が完全一致した JPEG、RAW 画像。
撮影時のオリジナル画像を、コピー/貼り付けで複製した画像や、ファイル名を変更しただけの画像はオリジナルと判定されません。
また、カメラで「縦横自動回転表示」と「画像回転」を行った画像、Original Data Security Utility で復号表示または、復号して保存した画像もオリジナルと判定されます（EOS-1Ds の画像は除く）。

オリジナルではないと判定される条件

- Zoom Browser/Image Browser で、自動的に縦位置表示された画像。
- レタッチや撮影情報が変化する操作を行った場合。
- ホワイトバランスなどの変更を行った RAW データ。

オリジナル性の検証ができない条件

以下の条件では、画像にオリジナル画像判定用データが付加されないため、オリジナル性の検証はできません。

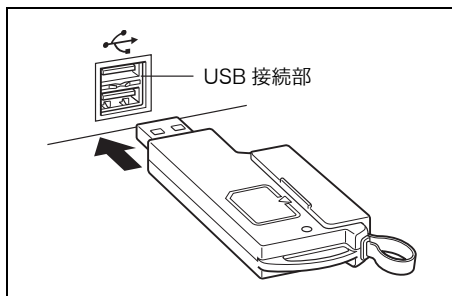
- RAW データから変換した JPEG、TIFF 画像。
- EOS-1Ds を使用した Remote Capture/EOS Capture 撮影で、直接コンピューターに取り込んだ画像。

画像のオリジナル性を検証する

パソコンを起動しておきます。

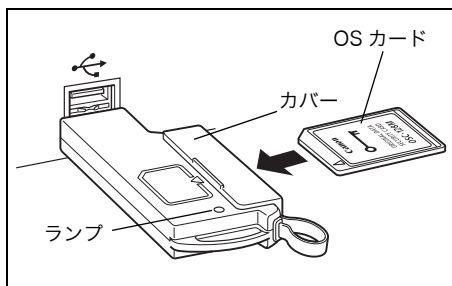
1 リーダー／ライターをパソコンに接続する

- パソコンのUSB 接続部にリーダー／ライターを接続します。
- ご使用のパソコンにより接続部の位置は異なります。詳しくはご使用のパソコンの使用説明書を参照してください。



2 OS カードをリーダー／ライターに差し込む

- リーダー／ライターのランプが点灯していることを確認します。
- リーダー／ライターのカバーは取りつけたまま、図のようにして、OS カードをリーダー／ライターの奥までしっかり差し込みます。



リーダー／ライターとパソコンを接続している状態で、パソコンをスタンバイ（スリープ）状態にしないでください。

万一、リーダー／ライターとパソコンを接続している状態で、パソコンをスタンバイ（スリープ）状態にしてしまったときは、必ずリーダー／ライターを接続したままでスタンバイ（スリープ）状態を回復してください。スタンバイ（スリープ）状態でリーダー／ライターを抜くと、パソコンの機種によってはスタンバイ（スリープ）状態から正常に回復しないことがあります。スタンバイ（スリープ）状態の詳細については、お使いのパソコンの使用説明書を参照してください。



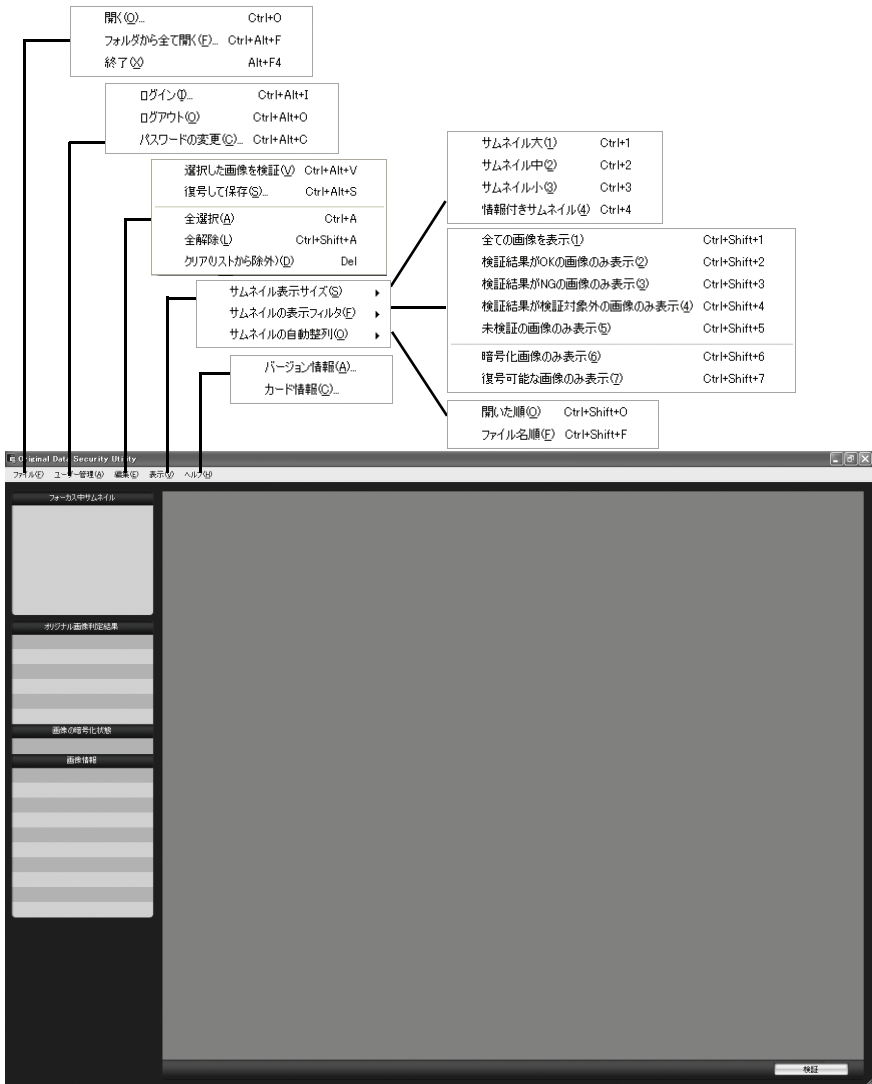
- OSカードをリーダー／ライターに差し込んだ際、リムーバブルディスクが開いたことを示すウィンドウが立ち上がる場合があります。その場合はウィンドウを閉じてください。
- OSカードを画像のオリジナル性を検証する用途に限定して使用する場合には、OSカードの初期設定（p11）を行う必要はありません。



- OS カードがパソコンと通信を行っている時は、リーダー／ライターのランプが点滅します。リーダー／ライターのランプが点滅中および、ソフトウェアの起動中は、絶対に OS カードを抜き取らないでください。OS カードを壊す原因になります。
- OS カードをリーダー／ライターに挿入する時、表裏逆、または逆方向からの挿入をしないでください。
- リーダー／ライターのカバーは静電気防止の役割を持っています。取り外さず、そのままご使用ください。
- OS カードは精密機器です。曲げたり、強い力を加えたり、衝撃や振動を与えないでください。
- OS カードは、128MB のメモリーカードとして使用することもできますが、容量が少ないため、画像記録用としての使用はおすすめしません。
- OS カードは分解したり、改造しないでください。
- OS カードの接点に、傷をつけたり、ゴミや水、異物などを付着させたり、手や金属で触れたりしないでください。また、ベンジンやシンナー等で拭かないでください。
- OS カードに貼られているラベルをはがしたり、別のラベルやシールを貼らないでください。
- 温度差の大きな場所に急に移動すると、OS カードに水滴が付き（結露）、故障の原因となることがあります。結露を防ぐには、移動の前にビニール袋に入れて密閉しておき、周囲の温度に十分慣らしてからお使いください。結露したときは、水滴が自然に消えるまで常温で放置してください。
- OS カードを保管するときは、専用ケースに入れてください。
- OS カードは、高温多湿の場所や、ほこりや砂ぼこりの立つところで使用したり、保管しないで下さい。
- 本システムと同じように、カードとリーダー／ライター、ソフトウェアを利用したほかのシステムをお使いのときは、本システムの OS カードは絶対にそのシステムで使用しないでください。使用すると、OS カードが壊れる恐れがあります。
- オリジナルデータ確認キット DVK-E2 の SM カードを使用して、OSK-E3 で画像オリジナル性の検証を行うことはできません。

3 Original Data Security Utility を起動する

- EOS Utility (2.0 以降) を立ち上げ [アクセサリ] ▶ [ODS Utility] を選びます。
→ Original Data Security Utility が起動します。



- [スタート] ボタンを押して、[すべてのプログラム] (Windows 2000 は [プログラム]) ▶ [Canon Utilities] ▶ [Original Data Security Tools] ▶ [Original Data Security Utility] を選ぶことでも Original Data Security Utility を起動させることができます。

4 画像を読み込む

- [ファイル] メニューから [開く]、または [フォルダから全て開く] を選びます。
- 上記の方法以外にも、画像を Original Data Security Utility の画面へ直接ドラッグアンドドロップして読み込むこともできます。

[開く]

画像を任意に選択して読み込むときに選びます。

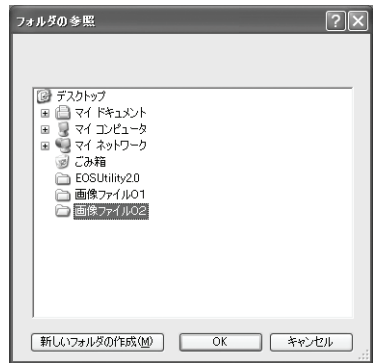
- 画像が保存されているフォルダを開き、マウスの左ボタンクリックで読み込む画像を選びます。複数の画像を選ぶときは、〈Ctrl〉キーや〈Shift〉キーを押したまま画像を選びます。
- [ファイルの種類] で、表示する画像形式を絞り込むことができます。
- [開く] ボタンを押すと、選んだ画像が読み込まれます。



[フォルダから全て開く]

フォルダ直下の画像を一括して読み込むときに選びます。

- [+] を左クリックして、エクスプローラーを操作する要領で画像の入っているフォルダを選びます。
- [OK] ボタンを押すと、フォルダに入っている画像が読み込まれます。



5 オリジナル性の検証をする画像を選ぶ

- マウスの左ボタンクリックで検証する画像を選びます。複数の画像を選ぶときは、〈Ctrl〉キーや〈Shift〉キーを押したまま画像を選びます。
- 全画像を選ぶときは 〈Ctrl〉 + 〈A〉 キーを押します。



- オリジナル画像判定データを持っている画像には、🔒 マークが表示されます。
- [表示]メニューの[サムネイル表示サイズ]を選ぶと、サムネイル表示サイズや情報付きサムネイルを選択することができます。
- 読み込んだ画像をダブルクリックすると、拡大表示されます。

6 検証する

- 【検証】 ボタンを押します。

→ 「画像に付加されている検証用データ」と「本キットが生成した検証用データ」を比較した結果が、[オリジナル判定結果]の欄に表示されます。

検証結果について

検証結果	内容
OK (オリジナル)	撮影時の画像データそのもので、オリジナル性が保たれています。
NG	撮影後、画像データに手が増えられ、オリジナル性が損なわれています。
オリジナル画像判定用データがありません	「オリジナル画像判定データ」が付いていない画像や、オリジナル判定用データ付加機能のないカメラで撮影した画像など、オリジナル性が検証できない画像です。
検証対象外の画像です	画像のオリジナル判定用データに手が増えられる等の理由で、正しくオリジナル判定用データが認識できない画像です。

* EOS-1D Mark III以前に発売されたカメラで撮影した画像データに関しては、判定理由の詳細は表示されません。

本製品によってオリジナルと判定された撮影データの真正性について、公的機関／第三者機関によって保証されるものではありません。



- Windows Vista、XP の『スキャナとカメラウィザード』を使用して EOS DIGITAL で撮影した画像をパソコンに取り込むと、オリジナル画像判定結果が NG となる場合があるため、絶対に使用しないでください。
撮影画像をパソコンに取り込む場合は、EOS Utility のご使用をおすすめします。
- 暗号化された画像は、復号または、復号表示されていないと画像オリジナル性の検証を行うことはできません。(p16)

7 画像のクリア

- 画像を選んで <Delete> キーを押すと、画像をクリア (リストから除外) することができます。

OS カードの初期設定

OSK-E3 の暗号化・復号機能を使用するためには、最初に OS カードの初期設定を行う必要があります。ただし、暗号化・復号機能を使用しない場合は、設定の必要はありません。

1 新しい OS カードまたは、初期化された OS カードをリーダー / ライターに挿入する

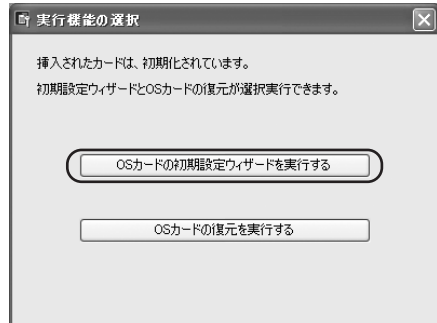
2 Original Data Security Administrator を起動する

- EOS Utility (2.0 以降) を立ち上げ [アクセサリー] ▶ [ODS Administrator] を選びます。

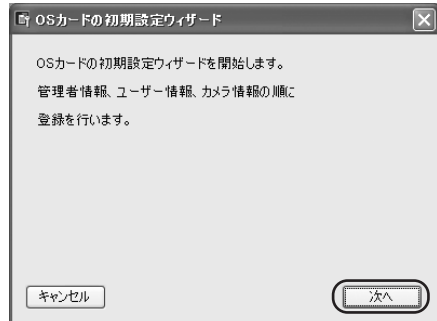


- [スタート] ボタンを押して、[すべてのプログラム] (Windows 2000 は [プログラム]) ▶ [Canon Utilities] ▶ [Original Data Security Tools] ▶ [Original Data Security Administrator] を選ぶことでも起動させることができます。

3 [OS カードの初期設定ウィザードを実行する] を押す



4 [次へ] ボタン を押す



5 管理者情報を入力し、[次へ] ボタンを押す

- パスワードは半角8～15文字で入力してください。

- 管理者がパスワードを忘れると、Original Data Security Administrator へのログイン (p20) や、すでに撮影した暗号化画像の復号表示 (p16)、復号 (p17) が一切できなくなりますので、ご注意ください。(弊社修理受付窓口でも復号表示、復号はできません。)

6 一般ユーザー情報を入力し、[次へ] ボタンを押す

- 一般ユーザーは1カードに最大9名まで登録できますが、OSカード初期設定中は1名しか登録できません。複数の一般ユーザーを登録する場合は、初期設定完了後、Original Data Security Administrator から追加登録を行ってください。(p20)

7 使用カメラ情報を入力し、[次へ] ボタンを押す

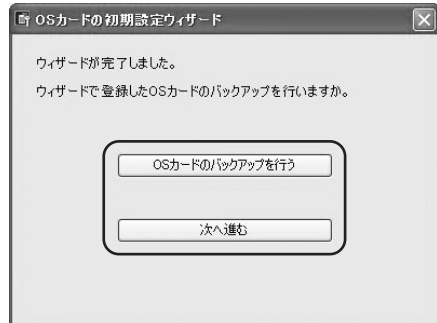
- カメラ機種名は、ご使用の製品名を選択してください。また、Body No. はカメラの機番を正しく入力してください。これらの内容が正しく入力されていないと暗号化はできません。



- 使用カメラは1カード最大10台まで登録できますが、OSカード初期設定中は1台しか登録できません。複数のカメラを登録する場合は、初期設定完了後、Original Data Security Administrator から追加登録を行ってください。(p20)

8 OSカードの現時点の登録データを、パソコン上にバックアップする場合は、**[OS カードのバックアップを行う]**を、そうでない場合は**[次へ進む]**を押す

- **[OS カードのバックアップ]** は、『OS カードのデータをパソコン上にバックアップする』(p26)の手順をご参照ください。
- **[次へ進む]**を押すとOriginal Data Security Administratorの画面が立ち上がります。(p20)
必要なメンテナンスを行った後、終了させてください。



- OSカードを紛失、または破損した場合、すでに撮影した暗号化画像の復号表示 (p16) や復号 (p17) は一切できなくなります。(弊社修理受付窓口でも復号表示、復号はできません。) つきましては、OSカードの複製 (p24) や OSカードのデータをパソコン上にバックアップする (p26) を行っておくことをおすすめします。
- パソコン上にバックアップしたデータを、新しい OS カードや、初期化した OS カード (p29) に復元するには、パソコンから OS カードにデータを復元する (p27) を参照してください。

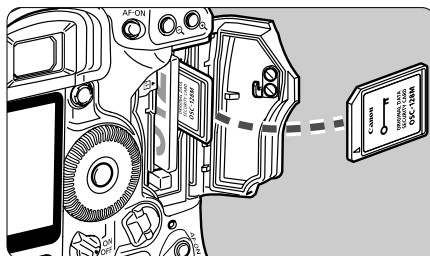
画像の暗号化

画像の暗号化・復号の対象カメラ（→ OSK-E3 使用前の準備）は、OS カードを用いて撮影画像の暗号化を行うことができます。画像の暗号化を開始する前に、必ず OS カードの初期設定と使用カメラの登録を行ってください（p20、22）。これらの作業が完了していないと、画像の暗号化は行われません。


暗号化された画像は、Original Data Security Utility を使用して、復号表示（p16）または復号して保存（p17）を行わない限り、パソコンの画面上で閲覧することはできません。

1 登録カメラの SD カードスロットに、初期設定済の OS カードを入れる

- OS カードの入れ方、取り出し方は、カメラ使用説明書「メモリーカードを入れる / 取り出す」の SD カードの入れ方、取り出し方を参照してください。
- 正しく初期設定が行われた OS カードを装填した場合は、カメラの液晶モニターに「カメラの認証に成功しました。暗号 / 復号化できます」が表示されます。他の表示がでた場合は、カメラの表示に従って設定を行ってください。



2 撮影する

- OS カードを入れて撮影した画像は、すべて自動的に暗号化されます。また、撮影後は、通常画像同様、カメラの液晶モニターに撮影画像表示が行われます。
- OS カードを取り出すと、画像の暗号化は機能しません。
- カメラに OS カード装填時、暗号化画像をカメラの撮影情報表示で再生すると  が表示されます。また、通常画像と同様に、再生画像、撮影情報、ヒストグラムが表示されます。
- 暗号化画像の、撮影後のカメラでの撮影画像表示や、カメラでの画像の再生は、暗号化処理や復号表示処理のため、時間がかかります。かかる時間の目安は以下のとおりです。

画像サイズ	1 枚のサイズ (約・MB)	1 枚撮影後、撮影画像表示にかかる時間	画像の再生にかかる時間
JPEG Large8	3.5	約 12 秒	約 7 秒
RAW	13	約 21 秒	約 1 秒
JPEG Large8+RAW	13+3.5	約 32 秒	約 7 秒

* 連続撮影後、撮影画像表示にかかる時間は、（1 枚撮影後、撮影画像表示にかかる時間）×（連続撮影枚数）の約 6 割の時間となります。



- OS カードは、128MB のメモリーカードとして使用することもできますが、容量が少ないため、画像記録用としての使用はおすすめしません。
- 画像の暗号化を行う時は、記録機能は [標準] に設定し、記録先は OS カード以外を選択してください。
- OS カードをカメラに入れるとき、表裏逆または逆方向から入れないでください。




- 暗号化された画像は、通常撮影と同様に記録メディアに保存、パソコンへの転送、ワイヤレストランスミッター WFT-E2 を使用した無線転送や、外部メディアへの保存を行うことができます。また、無線転送時は、暗号化に処理時間がかかるため、通常より転送の完了に時間がかかることがあります。
- 当機能で暗号化されるのは撮影画像のみで、画像に付加される撮影情報は暗号化されません。
- 暗号化した画像は、キヤノン製ソフトウェア (Digital Photo Professional、Zoom BrowserEX、ImageBrowser) を使用しても非対応画像と認識されるため、表示されません。また、動作が著しく遅くなる場合があります。
- カメラに OS カード装填時、暗号化画像に対しても、通常画像と同様に、各種機能を設定することができますが、カメラダイレクトプリント、DPOF、壁紙設定機能を使用することはできません。
- 画像に録音した音声ファイルを暗号化することはできません。
- 暗号化画像に対しても、オリジナル画像判定用データを付加することができます。カスタム機能設定で、画像にオリジナル画像判定用データを付加する設定を行ってください。

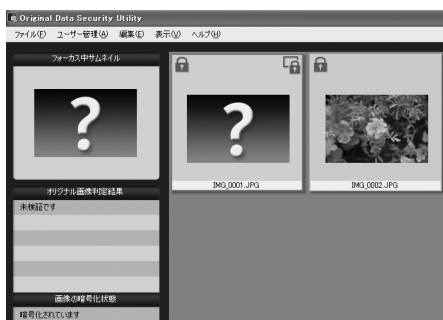
画像の復号

カメラと OS カードを用いて暗号化した画像を復号します。
最初に、リーダー/ライターをパソコンに接続し、OS カードをリーダー/ライターに差し込んだ上で、Original Data Security Utility 画面を開いておきます。(p8)

画像の復号表示

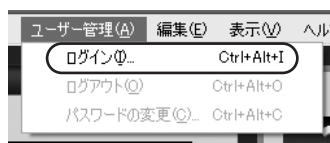
1 画像を読み込む (p9)

→ 暗号化された画像は  で表示されます。




暗号化された画像には  マークが表示されます。

2 [ユーザー管理] から [ログイン] を選びクリックする



3 [ユーザー名] と [パスワード] を入力し、[OK] ボタンを押す

→ OS カードにログインされ、暗号化画像が自動的に復号表示されます。

[ユーザー管理] から [ログアウト] を選んでクリックすると、OS カードからログアウトし、復号表示されていた画像が再び  表示にもどります。



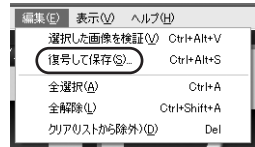


- 復号表示された画像は、暗号化画像が、Original Data Security Utility 上で、一時的に復号表示されているだけで、画像データが復号されたわけではありません。画像データの復号については『画像を復号して保存』をご参照ください。
- 復号表示、または復号された画像は、画像オリジナル性の検証を行うことができます。

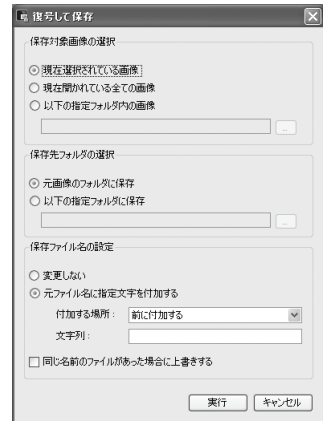
画像を復号して保存

Original Data Security Utility 起動中、OS カードへログインしている時は、暗号化画像データを復号して、別画像として保存することができます。

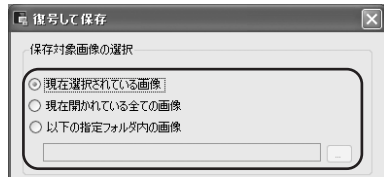
1 [編集] から [復号して保存] を選びクリックする



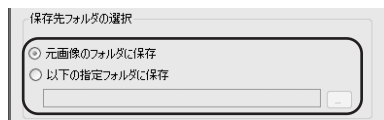
→ [復号して保存] 画面が立ちあがります。



2 [保存対象の選択] から、復号して保存するファイルを指定する



3 [保存先フォルダの選択] から、保存先を指定する



4 保存ファイルの設定を入力する

保存ファイル名の設定

変更しない

元ファイル名に指定文字を付加する

付加する場所： 前に付加する

文字列：

同じ名前のファイルがあった場合を上書きする


実行 キャンセル

5 【実行】ボタンを押す

終了する

1 ソフトウェアを終了させる

2 リーダー／ライターをパソコンから取り外す

- 画面右下のアイコン  をクリックし、[USB Filter Driver For JAE XMC R/W(v4)-ドライブ (E:) を安全に取り外します] (Windows 2000 は [USB Filter Driver For JAE XMC R/W(v4)-ドライブ (E:) を停止します]) を選んでクリックします。
- リーダー／ライターをパソコンから取り外します。

3 OS カードを取り出す

- OS カードをリーダー／ライターから、取り出します。

OS カードの登録とメンテナンス

初期設定の完了した OS カードは、Original Data Security Administrator を使用して次の登録やメンテナンスを行うことができます。

- ① ユーザー情報管理 ② カメラ情報管理 ③ OS カードの複製 ④ OS カードのデータをパソコン上にバックアップ ⑤ OS カードの初期化

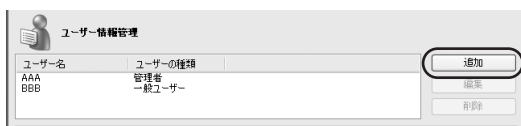
メンテナンスを行うときは、あらかじめ、パソコンに接続したリーダー / ライターに初期設定の完了した OS カードを挿入した上で、Original Data Security Administrator を起動します。(p11) なお、OS カードの登録やメンテナンスは管理者しか行うことができません。



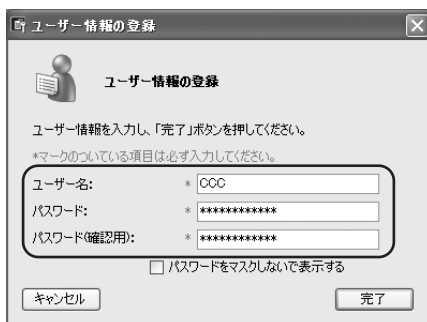
ユーザー情報管理

一般ユーザーの追加

- 1 [ユーザー情報管理] の [追加] ボタンを押す



- 2 [ユーザー名]、[パスワード]、[パスワード(確認用)] を入力する



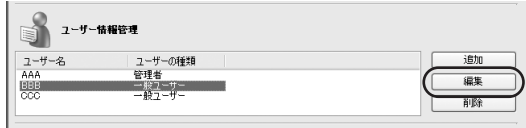
3 [完了] ボタンを押す



管理者を追加することはできません。

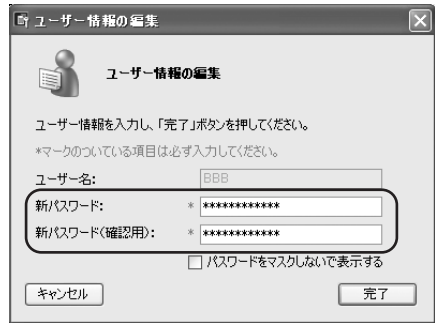
ユーザーのパスワード変更

1 [ユーザー情報管理] から管理者または、パスワードを変更したいユーザーを選び、[編集] ボタンを押す



2 [新パスワード]、[新パスワード(確認用)] を入力する

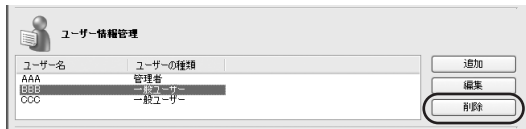
- パスワードは半角8～15文字で入力してください。



3 [完了] ボタンを押す

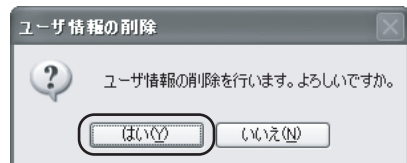
一般ユーザーの削除

1 [ユーザー情報管理] から削除したい一般ユーザーを選び、[削除] ボタンを押す



2 [はい] ボタンを押す

- 選択された一般ユーザーが削除されます。

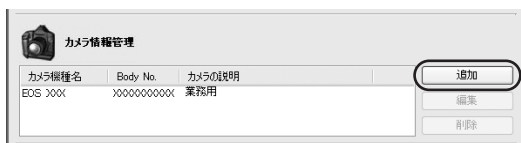


管理者を削除することはできません。

カメラ情報管理

カメラの追加

1 **[カメラ情報管理]** の **[追加]** ボタンを押す



2 **[カメラ機種名]**、**[Body No.]**、**[カメラの説明]** を入力する



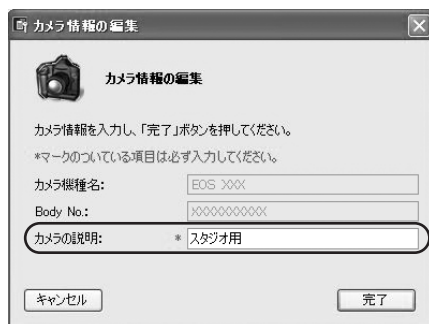
3 **[完了]** ボタンを押す

カメラ情報の編集

1 **[カメラ情報管理]** から、**情報を編集したいカメラ** を選び、**[編集]** ボタンを押す



2 **[カメラの説明]** の項目をメンテナンスする



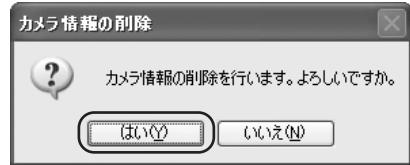
3 **[完了]** ボタンを押す

カメラの削除

1 **[カメラ情報管理]** から削除したいカメラを選び、**[削除]** ボタンを押す



2 **[はい]** ボタンを押す
→ 選択されたカメラが削除されます。



OS カードの複製

1 [OS カード管理] の [複製] ボタンを押す



2 [次へ] ボタンを押す

→ [次へ]ボタンを押すとOSカード内のデータを読み込みます。リーダー/ライターランプが点滅中はカードを抜かないでください。



3 『リムーバブルメディアの取り出し』を行った後、カードをリーダー/ライターから取り出し、[次へ]を押す

- 『リムーバブルメディアの取り出し』は、以下の手順で行います。デスクトップの[スタート]ボタン → [マイコンピュータ]の順にクリックして開き、[リムーバブルディスク]を右クリックしてメニューを開いたあと、取り出しをクリックします。

* Windows2000 をお使いのときは [マイコンピュータ]をダブルクリックして開きます。



4 複製データを書き込むOSカードをリーダー/ライターに挿入し、[次へ] ボタンを押す



新しい OS カードまたは、初期化された OS カードにしか、複製を行うことはできません。

5

[OK] ボタンを押す

→ ソフトウェアが終了します。



OS カードのデータをパソコン上にバックアップする

1 [OS カード管理] の
[バックアップ] ボタン
を押す



2 [次へ] ボタンを押す



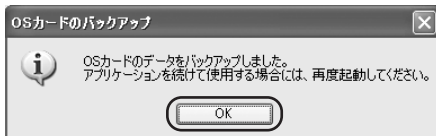
3 [参照] ボタンを押し、[データのバックアップ先] の指定と [ファイル名] の入力をした後、[バックアップのためのパスワード] を入力し、最後に [次へ] ボタンを押す

- パスワードは半角8～15文字で入力してください。
- バックアップデータのファイル名末尾には拡張子 .osf が付きます。



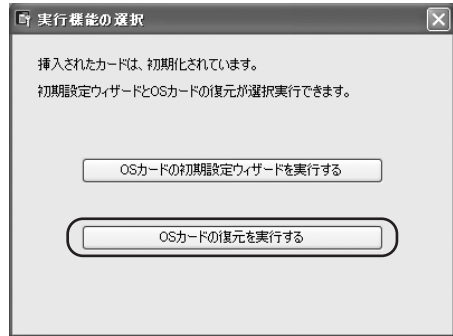
❗ パスワードを忘れると、パソコンから OS カードにデータを復元する (p27) ができなくなります。ご注意ください。

4 [OK] ボタンを押す
→ ソフトウェアが終了します。



パソコンから OS カードにデータを復元する

- 1 新しい OS カードまたは、初期化された OS カード (p29) をリーダー/ライターに挿入する
- 2 Original Data Security Administrator を起動する (p11)
- 3 [OS カードの復元を実行する] を押す



- 4 [次へ] ボタンを押す
→ [次へ] ボタンを押すと、OSカード内のデータをパソコン上にバックアップします。リーダー/ライターのランプが点滅中はカードを抜かないでください。

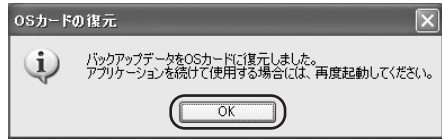


5 **[参照]** ボタンを押し、**[バックアップデータの保存先]** を指定後、**[バックアップ時のパスワード]** を入力し、最後に **[次へ]** ボタンを押す

→ パスワードを間違えて入力すると、ソフトウェアが終了します。

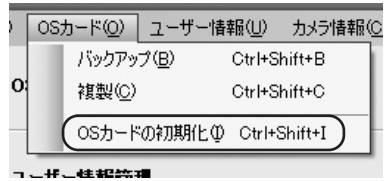


6 **[OK]** ボタンを押す
→ ソフトウェアが終了します。

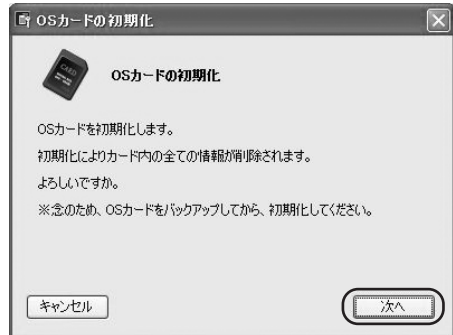


OS カードの初期化

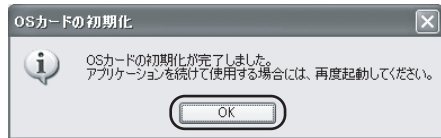
1 [OS カード] から、[OS カードの初期化] をクリックする



2 [次へ] ボタンを押す



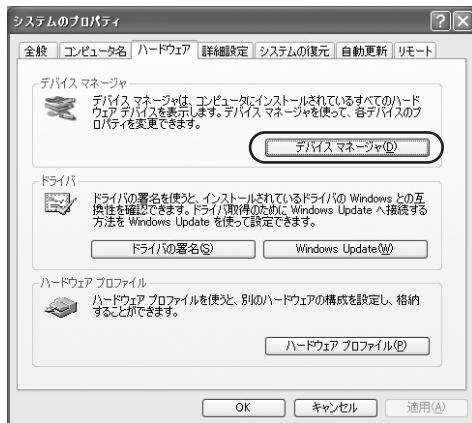
3 [OK] ボタンを押す
→ ソフトウェアが終了します。



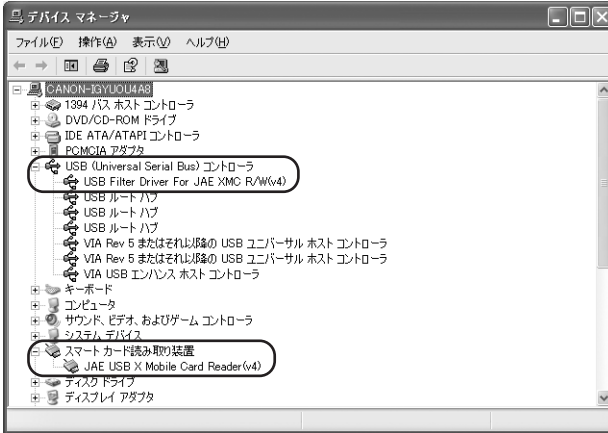
トラブルシューティング

ソフトウェアがうまく動作しないときは、以下の項目を確認してください。

- お使いのパソコンは、以下に該当していますか？
 - USB 接続部を搭載した Windows XP、Windows Vista、Windows 2000 プリインストール機。(アップグレード機は非対応)
 - ※上記以外のパソコンでの USB 接続はサポートしておりません。
- リーダー/ライターとパソコンが正しく接続されていますか？
- OS カードがリーダー/ライターに正しくセットされていますか？
- 2 台以上のリーダー/ライターを接続していませんか？
 - 1 台のパソコンにリーダー/ライターを 2 台以上接続すると、ソフトウェアが正しく動作しないことがあります。
 - ソフトウェアをいったん終了させてからリーダー/ライターをすべて外します。そのあと、リーダー/ライターを 1 台だけパソコンに再度接続してください。
- ドライバは正常に動作していますか？
 - 以下の方法でドライバの状態を確認してください。
 - ① リーダー/ライターをパソコンに接続する
 - ② デバイスマネージャを表示する
 - Windows XP、Windows Vista
 - [スタート] ボタン ▶ [コントロールパネル] ▶ [パフォーマンスとメンテナンス] (Windows Vista の場合は [システムとメンテナンス]) ▶ [システム] の順にクリックし、[ハードウェア] タブを選んで、[デバイスマネージャ] ボタンを押します。
 - Windows 2000
 - [スタート] ボタンを押して [設定] ▶ [コントロールパネル] を選び、[システム] アイコンをダブルクリックして開き、[ハードウェア] タブを選んで、[デバイスマネージャ] ボタンを押します。



③ ドライバの状態を確認する



- 上図の 内の内容が表示されれば、ドライバは正常に動作しています。どれかひとつでも表示されないときは、ドライバが正しく動作していません。リーダー／ライターをいったん取り外し、再度しっかりと差し込んでください。それでも上記 内の内容が表示されないときは、ドライバをインストールしなおしてください。



リーダー／ライターをパソコンから取り外して、再度取り付ける時は、取り外し後、2～3秒、時間をあけてから取り付けてください。

- [USB Filter Driver For JAE XMC R/W(v4)] または [JAE USB X Mobile Card Reader(v4)] の隣に [X] [!] [?] マークが付いているときは、ドライバが正しくインストールされていません。ドライバをアンインストール (p32) して、再度インストールしなおしてください。
- Windows XP、Windows Vista をお使いの場合、「Smart Card サービスの設定」は行いましたか？
→ リーダー／ライターの接続を自動認識させるために、「Smart Card サービスの設定」(→ OSK-E3 使用前の準備) を行って下さい。


アンインストール手順

ソフトウェアをアンインストールする

- Administrator 権限でログオンしてください。
- ソフトウェアをアンインストールしたあとは、必ずパソコンを再起動してください。パソコンが正しく動作しないことがあります。特に、再起動をしないでソフトウェアを再インストールすると、誤動作の原因となります。

アンインストールする

- [スタート] ボタンを押して、[すべてのプログラム] (Windows 2000 は [プログラム]) ▶ [Canon Utilities] ▶ [Original Data Security tools アンインストール] を選びます。
- Original Data Security Utility と Original Data Security Administrator がアンインストールされます。

 アンインストールが終了したら、パソコンを再起動してください。

ドライバをアンインストールする


- Administrator 権限でログオンしてください。
- ソフトウェアをアンインストールしたあとは、必ずパソコンを再起動してください。パソコンが正しく動作しないことがあります。特に、再起動をしないでソフトウェアを再インストールすると、誤動作の原因となります。

1 アンインストールする

- [スタート] ボタンを押して、[すべてのプログラム] (Windows 2000 は [プログラム]) ▶ [Canon Utilities] ▶ [XMC Reader Writer Driver] ▶ [XMC Reader Writer Driver アンインストール] を選びます。
- ドライバがアンインストールされます。

2 リーダー/ライターをパソコンから取り外す

- これで、リーダー/ライターのドライバアンインストールが完了しました。コントロールパネル関係のウィンドウをすべて閉じてください。

 アンインストールが終了したら、パソコンを再起動してください。

主な仕様

OS カードリーダー／ライター

型式：	OS カードリーダー／ライター
カードの挿入／取出し：	手動
適合メモ리카ード：	OS カード OSC-128M
インターフェース：	USB 端子 (USB 2.0 Hi-Speed)
電源：	DC 5 V (バスパワーによる供給)
寸法：	88 mm (幅) × 14 mm (高さ) × 38 mm (奥行き)
質量：	約 20 g (本体のみ)
使用温度：	0 °C ~ 40 °C (結露なきこと)

OS カード OSC-128M

寸法：	32 mm (幅) × 24 mm (縦) × 1.5 mm (厚み)
質量：	約 1.6 g

Original Data Security Disk

ディスクの中には、次のものが入っています。

- ・ オリジナルデータセキュリティツルズ
 - ・ オリジナルデータ確認 / 画像復号ソフト オリジナル データ セキュリティ ユーティリティ Original Data Security Utility
 - ・ OS カード管理ソフト オリジナル データ セキュリティ アドミニストレーター Original Data Security Administrator
- ・ エックスエムシー リーダーライター ドライバー XMC ReaderWriter Driver
- ・ OSK-E3 使用説明書 (PDF 形式の電子マニュアル)

本製品のセキュリティについての注意事項

- 「OS カードの初期設定」と「登録とメンテナンス」を行う管理者は、本使用説明書に従い、Original Data Security Administrator を使用して、OS カードを適切に管理してください。
- 「画像オリジナル性の検証」または「画像を復号」する管理者、および一般ユーザーは、本使用説明書に示された Original Data Security Utility を使用してください。
- OS カードの管理者、および一般ユーザーは、数字およびアルファベットを含む、半角 8-15 文字でパスワードを設定し、さらにパスワードが本人以外の第三者に知られないように管理してください。
- 管理者、または一般ユーザーが Original Data Security Administrator または Original Data Security Utility をインストールして利用するパソコンは、第三者が不正使用できないように設置を行い、不正なプログラムによって Original Data Security Administrator、および Original Data Security Utility の動作を監視、または干渉されないように管理してください。
- Original Data Security Administrator、および Original Data Security Utility をインストールして使用するパソコンに接続される OS カードリーダー／ライターは、第三者によって不正に改造されないように管理してください。さらにパソコンと OS カードリーダー／ライター間でデータの傍受、または改ざんが行われないよう管理してください。
- 画像の暗号化時に、使用する OS カードを間違えない、もしくはすりかえられないよう注意してください。

お客様相談窓口

製品の取り扱い方法、修理サービスのご相談は、機種名をご確認のうえ、お買い上げの販売店または、別紙のサービス窓口にご相談ください。

アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
2. 本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために不可欠な部品）は、日本国内において、製造打ち切り後 7 年間を目安に保有しています。したがって期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、故障の原因や内容によっては、期間中でも修理が困難な場合と期間後でも修理が可能な場合がありますので、その判定につきましてはお買い上げ店または、別紙のサービス窓口にお問い合わせください。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

キヤノンカメラサイトのご案内

キヤノンデジタルカメラのホームページを開設しています。カメラに関する情報を掲載しているコンテンツ等もございますので、インターネットをご利用の方は、お気軽にお立ち寄りください。

キヤノン株式会社／キヤノンマーケティングジャパン株式会社
canon.jp/eos-d

Canon